

群 教 七	G02 - 02
	平27.257集
	社会 - 小

歴史的事象に対する 関心・意欲を高める指導の工夫

—資料の比較から出された疑問や驚きを基にした
単元を貫く学習課題づくりを通して—

特別研修員 本間 達也

I 研究テーマ設定の理由

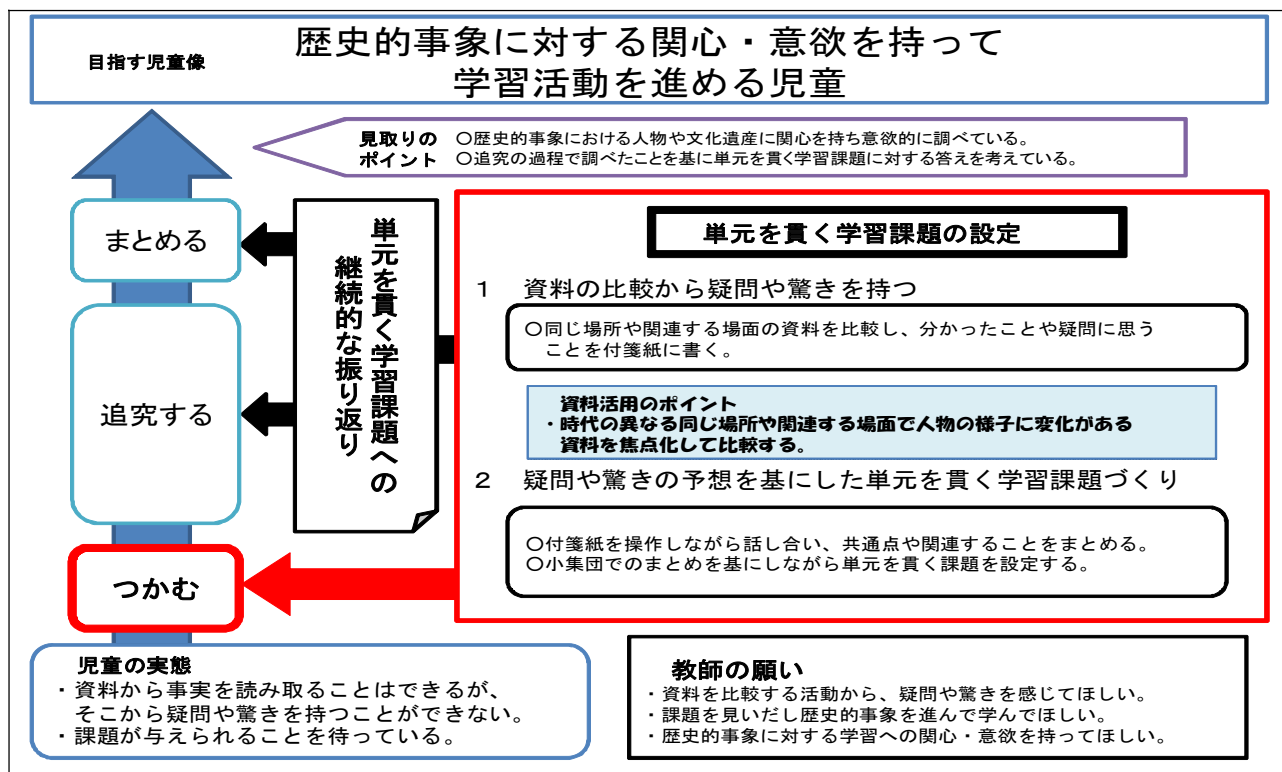
平成27年度学校教育の指針では、社会科の指導の重点として、「単元の導入で、児童生徒に疑問や驚きをもたせるようにし、その疑問や驚きをもとに、単元を貫く学習課題を設定していきましょう。」と学ぶ対象との出会いの大切さを取り挙げている。この学習課題は、追究過程を有機的に結び付ける働きをする。

児童は単元の導入で提示した一つ一つの歴史資料から、何をしている人か、どんな物があるかなどを読み取ることはできる。しかし、そこから当時の人々の生活を想像したり、思いを推察したりするなど、歴史的な事象に対する関心・意欲を十分に高めることに、指導する側としては難しさを感じている。これは指導を振り返ってみると教師主導による歴史的な事象について覚える学習が多くなってしまっていること、資料を丁寧に読み取る活動を計画的に取り入れていないことに原因があるのではないかと考えられる。そこで、課題をつかむ過程での資料の取り上げ方を工夫し、疑問を抱いたり、想像したりすることに対する意識を高め、単元を貫く学習課題を効果的に設定し、調べてみようという意欲を持った状況を作ることが必要である。

以上のことから、つかむ過程において、資料の比較から出された疑問や驚きを基にした学習課題づくりを行い、疑問に対する予想を立てる。そして、友だちと意見を交流する中で出された予想を基に単元を貫く学習課題を設定することで、課題を追究していこうとする意欲を持って学習に取り組むことができるであろうと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1)「3人の武将と天下統一」(第6学年・1学期)において、以下の手立てで、資料を比較する活動を基にして、学習課題づくりを行う活動を行った。

つかむ過程の工夫：疑問や驚き → 課題設定 → 予想

- ① 3人の武将の業績に関する資料を比較し、疑問に思ったことやもっと知りたいことを書く。(疑問や驚き)
- ② 小集団で考えを発表し、意見を比較させながら疑問に思ったことやもっと知りたいことについて話合う。(課題設定)

実践1では、長篠合戦図、大名勢力図、年表を比較する活動を行った。その活動の中で信長と秀吉の勢力図を比較する場面で、秀吉の勢力拡大は児童の予想を超えるものであったため、驚きの歓声が上がった。これは、児童の予想と提示した資料に大きな開きがあったからと考えられる。疑問に思ったことやもっと知りたいことを話し合ったことで、「なぜ、豊臣秀吉は織田信長より勢力を広げることができたのか」「なぜ、豊臣秀吉は朝鮮を攻めたのか」といった共通の疑問を持つことができた。その疑問を活かして「信長・秀吉・家康のうち、天下統一のために一番活躍したのはだれでしょう」という単元を貫く学習課題を設定したことで、自分で調べていこうという意欲を高められるようにした。

つかむ過程での単元を貫く学習課題の設定はできたが、その後の学習の中で、この課題は忘れられてしまったので、途中で課題を確認したり、課題に振り返ったりする活動が必要であると感じた。

(2)「明治の国づくりを進めた人」(第6学年・2学期)実践2では次のように手立てを改善した。

つかむ過程の工夫：疑問や驚き → 予想 → 課題設定

- ① 時代の異なる同じ場所や人物の様子に関連する場面の資料を比較しながら事実や変化を読み取り、近代化の要因について関心を持たせる。(疑問や驚き・予想)
- ② 小集団で友だちの考えや複数の資料を参考にしながら、近代化の要因についての予想を立て、課題解決の見通しを持たせる。(予想を基にした課題設定)

まず、全体で江戸末期と明治初期の同じ場所の資料比較から、大きな時代の変化があったことに気付かせ、「なぜ、変化したのだろうか」という疑問を持たせた。そして、人物の様子に関する追加資料を比較させることで「外国との関係が変わったのか」「誰が関係しているのか」といった疑問が生まれた。小集団で変化の要因についての予想を立て、その予想を活かしながら「どのようなこと、どのような人々の思いや願いで、世の中は変わっていったのだろうか」という単元を貫く学習課題を設定した。最後に、自分の予想とその予想を確かめるために調べていきたいことを考えさせた。追究の場面においても単元を貫く学習課題に毎回振り返り、どんなことを調べるのか、予想したことと合っていたことは何かということを確認していくことで、学習への関心・意欲を持続させるようにした。

III 研究のまとめ

1 成果

- 疑問や驚きを抱かせることができるような、時代の異なる同じ場所や関連する場面で人物の様子に変化がある資料を比較することで、課題解決に向けて関心・意欲を持って学習活動を進めることができた。
- 予想を基に単元を貫く学習課題を設定したことで、自主的に人物についての調べ学習を行ったり、自分なりの考えを出したりする姿が見られ、歴史的事象に対する関心・意欲を高めることができた。

2 課題

- 小集団で話し合う活動では、気付いたことや疑問点を明確にしていく工夫が必要である。
- 児童が抱いた疑問を、単元を貫く学習課題につながる疑問へと集約していく方法が必要である。

<授業実践>

実践 1

1 単元名 「3人の武将と天下統一」(第6学年・1学期)

2 本単元及び本時について

本単元は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3人の武将の活躍によって戦国の世が統一され、身分制度が確立し、武士による政治が安定したことを理解できることをねらいとしている。本時は単元計画のつかむ過程にあたる。3人の武将の業績に関連する複数の資料から、疑問に思ったことやもっと知りたいことを付箋紙に書き、それを基に小集団で情報の比較・検討を行った。その後、全体で情報を整理することで、3人に共通する思いが天下統一であったことに気付けるようにした。最後に「信長、秀吉、家康のうち、天下統一のために一番活躍したのはだれでしょう」という単元を貫く学習課題を提示し、各自で予想を立てることで今後の学習の見通しを持たせ、課題を追究していこうとする意欲を高めようと考えた。

3 授業の実際

(1) 関連する資料を比較する

大名勢力図を提示し、大名同士の争いが日本全土で起こっていたことを押さえた上で、長篠合戦図を提示して気付いたことを発表させた。そして、長篠合戦で信長、秀吉、家康はともに戦っていることに注目させ、戦いの様子から、どちらが勝ったのかを予想させた(図1)。予想の中で鉄砲を使っているという意見が出てきたので、信長は鉄砲という武器を効果的に使うことで戦いに勝ったことを確認した。

- T 何か気付いたことはありますか
S 1 鉄砲をつかっている
S 2 柵がつくってある
T 右側はどうだろう
S 2 馬に乗っている
~~~~~ 中略 ~~~~~  
T どちらが勝ったと思いますか  
S 3 馬で一気に攻撃できるから武田軍  
S 4 織田軍は、柵を作って馬が入れないようにしているし、鉄砲を使って遠くから攻撃できるから織田軍だよ

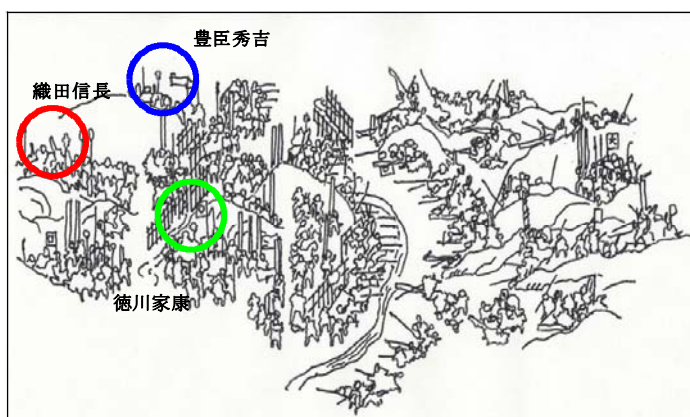


図1 長篠合戦図

次に、3人の業績が分かる年表を提示し活躍の様子を概観した。

また、3人の武将が当時どのくらいの領地をもっていたのかということ問いかけ、それぞれの勢力範囲を予想させた。

信長、秀吉、家康の順に大名勢力図(図2)を提示すると、天下統一に向けてだんだんと勢力が拡大していくと予想していた児童からは、秀吉の勢力図を見て、驚きの歓声が全体から上がった。予想よりも急激な変化があったことに、児童は驚きを感じていたようであった。

年代を変えて同じ事項に関する資料を比較することで、関わる人物が変わっただけで大きな変化があるのだということに気づき、児童は疑問や驚きを持つことができた。変化の様子が明瞭であることは驚きを持たせるのに有効であった。

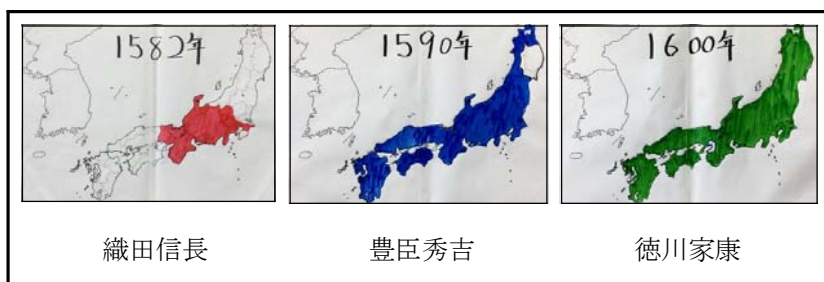


図2 大名勢力図

図3のS3の発言から、自分が予想していたりよりも、信長が多くの領地を持っていたことに驚いている様子が見られた。また、S5の発言から、信長と秀吉の領地の範囲が予想と違っていたことに多くの児童が驚きを感じていることが分かった。

**(2) 分かったことや疑問に思ったことを書く**

課題を追究する場面では、資料を比較して読み取ったことから、疑問に思ったことやもっと知りたいことを考え、付箋紙に書いた。長篠合戦図と年表を比較した児童は「なぜ、信長は家康と連合したのか」年表と勢力図を比較した児童は「秀吉はどうやって天下統一を進めていったのか」また、勢力図の変化に注目した児童からは、「どうして、秀吉は朝鮮に出兵したのか」といった疑問が出された。

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| T  | この三人はどれだけの領地をとったのだろう          |
| S1 | 同じくらいじゃない                     |
| S2 | 3分の1くらい                       |
| T  | 織田信長はこのくらい(勢力図を掲示)            |
| S3 | 多いな～、もっと少ないかと思った              |
| T  | 豊臣秀吉はどうだろう                    |
| S4 | 中国地方までとった                     |
| T  | (勢力図を掲示)                      |
| S5 | おお～ わあ～ 信長と全然違う。多くの領地を持ってたんだ～ |
| T  | 徳川家康はどのくらいだろう                 |
| S6 | そんなになかったと思う                   |
| S7 | でも、一番長生きしているから全部じゃない          |

図3 児童の驚きの様子

**(3) 共通点や関連することをまとめる**

小集団で疑問や驚きを書いた付箋紙を操作しながら、共通することや関連することは何かについて話合った。まとめには「なぜ、織田信長が家臣の明智光秀におそわれたのか」「豊臣秀吉はどのようにして全国を統一したのか」「なぜ、秀吉は朝鮮に出兵したのか」といった意見が出た。

**(4) 小集団でのまとめを基に単元を貫く学習課題を設定する**

それぞれの小集団から出た意見を取りあげながら、3人の武将に共通することや思いは何かということについて話し合った。そこから、共通することは天下統一であることを確認し、「それでは、信長、秀吉、家康のうち、天下統一のために一番活躍したのはだれか調べてみよう」と問いかけ、単元を貫く学習課題を設定した。児童は、自分で一番だと思う武将は誰かを選び、その理由となることを書いた。

|                                                                                                                          |                                                                                                                    |                                                                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>選んだ人物 織田信長が一番</b></p> <p>その理由</p> <p>鉄砲などを取り入れ、日本にはなかった兵器を使い、たくさん的人数で戦っていて、大きな力を持っているからです。</p> <p>※信長と考えた児童11人</p> | <p><b>選んだ人物 豊臣秀吉が一番</b></p> <p>その理由</p> <p>日本を全部おさめて、朝鮮までせめいくよゆうがあったと思うし、外国にも勝てると思っていたからです。</p> <p>※秀吉と考えた児童9人</p> | <p><b>選んだ人物 徳川家康が一番</b></p> <p>その理由</p> <p>全国のほとんどの領地をおさめることができた。260年も続く江戸幕府を開いたからです。</p> <p>※家康と考えた児童11人</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

豊臣秀吉を一番と考えた児童では9人で、その内7人は朝鮮出兵を理由に挙げた。それぞれの予想を全体に紹介し、予想を基に調べ学習を進めていき、学習のまとめでは誰が一番なのかということをもう一度考えて答えを出すことを確認した。

**(5) その後の学習の様子**

追究の過程では、信長、秀吉、家康についての調べ学習を行った。人物ごとの業績を調べていくことで、それぞれの人物の特徴を理解することができた。しかし、単元を貫く学習課題には、触れなかったため、どんな課題だったか、その解決のために何を調べていけば良いのかということが曖昧になってしまい、追究の過程では人物について調べるだけの活動になってしまった。まとめる過程においては教師側が補足しながら答えを提示し、単元の学習のまとめを行った。

**4 考察**

- 3人の武将の勢力図(共通する場面)の比較における児童の反応から、提示した資料は驚きや疑問を持たせることに有効であったと考えられる。
- 単元を貫く学習課題は、設定しただけになってしまったため、追究する場面で、何を課題として学習しているのかということが曖昧になってしまった。課題を確認したり、振り返ったりする活動を行って、関心・意欲を継続させていく必要があると考えられる。

## 実践2

### 1 単元名 「明治の国づくりを進めた人々」 (第6学年・2学期)

#### 2 本単元及び本時について

本単元は、明治政府が行った諸改革を通して、欧米の文化を取り入れて近代化を進めたことが分かるとともに、それに関わる人物の願いや働きについて、資料を活用しながら調べたことをまとめ、それらの意味について表現できることをねらいとしている。本時は単元のつかむ過程で、単元を通して学習する歴史的事象と同じ場所や場面を資料として比較することで、日本が近代化を進めていることに関心を持ち、その要因について予想を立てることで、解決の見通しを持つことができると考えた。

#### 3 授業の実際

##### (1) 同じ場所や関連する場面の資料を比較する

最初に、江戸末期と明治初期の日本橋の図を提示し、気付いたことを発表した。児童からは、「建物が違う」「乗っている物が違う」といった意見が出された。その後、人物の服装や髪型、建物、灯りなどの様子から、わずか20年で世の中が大きく変化したことを確認した。

##### (2) 気付いたことや疑問に思ったことを付箋紙に書く

近代的に変化した要因は何かを予想するために「大政奉還と大日本帝国憲法発布」「江戸の武士と明治の兵士」(図4)を提示し、それぞれの資料を比較し、気付いたことや疑問に思ったことを書かせた。

児童からは「だれが町をかえたのだろう」「大日本帝国憲法って何だろう」「明治時代には兵士はいるけど武士はどこへいったのだろう」などの疑問が出された。

同じ場所や人物の様子に変化がある資料を焦点化して比較することで、児童に「なぜ」「どうして」といった疑問や驚きを抱かせることができた。

##### (3) 共通点や関連することをまとめる

小集団で自分たちの気付きや疑問を出し合い、「明治時代は服や建物が洋風になっている」「大日本帝国憲法発布と明治の兵士は着ている物が今と似ている」など、共通点や関連する意見を比較させながら予想を考えさせた(図5)。小集団ごとに課題に対する予想を考えさせ、全体でどんな予想を考えたのかを確認した。

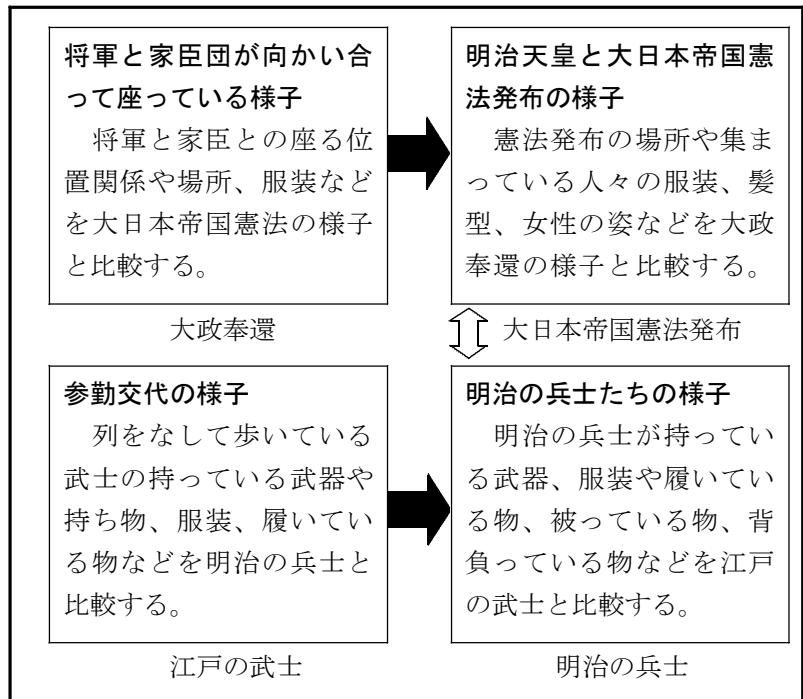


図4 授業で使用した比較資料

- |                                            |
|--------------------------------------------|
| S 1 (大日本帝国憲法発布の資料を指して)何か行事のやり方が違うね         |
| S 2 外国っぽいよね                                |
| S 3 外国じゃないだろう                              |
| S 4 でも、これ見て(資料集の「議会の様子」の図を指す)              |
| S 4 新しい幕府ができたからかな                          |
| S 1 いや違うよ 外国の人がきたからだよ                      |
| S 2 外国との貿易をたくさんするようになったからかな                |
| S 4 政治をする人が変わって、海外ともっと貿易したほうがいいと考<br>えたんだよ |

図5 小集団で予想を考える

小集団で変化の要因を考えたところ、「外国との関係に変化があったのではないか」「政治を行っている人が変わったので世の中も大きく変化したのではないか」という予想（図6）が出された。

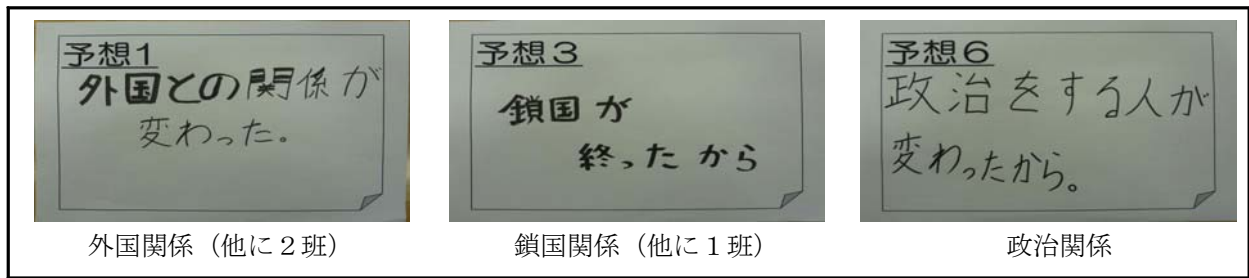


図6 小集団で出した予想

(4) 児童の意見を基に単元を貫く学習課題を設定し、解決の見通しを持つ

これらの予想を基にクラス全体では、「どのようなこと、どのような人々の思いや願いで、世の中は変わっていったのだろうか」という単元を貫く学習課題を設定した。そして、単元を貫く学習課題に対する自分の予想を立て、その解決の見通しを持たせるために、どのようなことを調べていきたいかを書いた。

|                                                                                                                                  |                                                                                                                                   |                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>予想</b><br/>外国の文化を日本に取り入れて、これからの生活に役立てようと、政治をしている人が考えたのだと思う。</p> <p><b>調べていきたいこと</b><br/>日本の政治で変わったことはあるのか。また、なぜ変わったのか。</p> | <p><b>予想</b><br/>外国から人が来て、その国の文化を取り入れた。そのときに、何か条約を結んだのかもしれない。</p> <p><b>調べていきたいこと</b><br/>どのような条約を結んだのか。外国からどのようなえいきょうを受けたのか。</p> | <p><b>予想</b><br/>海外の文化をもっと取り入れようと考えた人がいて、鎖国をなくし、いろいろな国と貿易をするようになった。</p> <p><b>調べていきたいこと</b><br/>海外との貿易を考えた人を調べることや日本にだれが来たのかを調べる。</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

予想では、外国の文化を取り入れようと考えた人がいると考えた児童が8人、外国人が日本に来て、外国の文化を伝えたからと考えた児童が5人、鎖国が終わることによって政治が変わったと考えた児童が11人であった。また、調べていきたいことには政治や外交などの面から記述されており、児童が意欲を持って今後の活動に取り組んでいこうとする様子が見られた。最後に個人で書いた調べていきたいことを発表し全体で共有した。その中から、この後の学習でどんなことを調べていくのかを確認することで課題追究の見通しを持たせることができた。

(5) その後の学習の様子

実践1の反省を基に単元を貫く学習課題は毎時間確認した。1時間ごとのまとめにおいて、学習と関連付けられるように継続して振り返るようにした。今学習していることと単元を貫く学習課題との関係を明確にしたり、自分が調べていることが課題からずれていないか照らし合わせたりすることで、関心・意欲を高めながら学習を継続することができた。

学習のまとめでは、ペリーが来たから開国したということだけでなく、日本は欧米に力では敵わないことが分かり、そこから欧米の国々に認められるような強い国にしたいという思いを持った人たちの願いや努力によって、日本が近代化していったと考えた発言やノートの記述が見られた。

4 考察

- 変化の要因を予想させ、そこから出された意見を基に単元を貫く学習課題を設定し、友だちの意見や複数の資料を参考に予想を立てることで課題解決の見通しを持たせることができた。
- 追究の過程からまとめる過程まで、単元を貫く学習課題と自分の予想がずれていないかや課題とどんな関わりがあるのかを毎時間確認しながら学習を進めることで、児童の関心・意欲を持続し、高めることができた。